

## 経営戦略について（可児市水道事業）

可児市水道事業におきましては、平成 25 年 12 月策定の「可児市水道事業中長期収支計画」を経営戦略として位置付けています。

計画策定から 3 年を経過しますので、今回見直しを行います。

### 【見直しのポイント】

#### 1 水需要予測（年間有収水量）

一日平均有収水量から年間有収水量を推計します。基礎となる有収水量を平成 22～24 年度実績の平均値から、直近の平成 25～27 年度実績の平均値に置き換えて推計します。

#### 2 投資計画の概要説明

可児市の水道事業は供用開始から 54 年を経過しました。現在、平成 24 年度策定の「可児市水道施設耐震化計画」、平成 26 年度策定の「可児市水道ビジョン」に基づき水道施設の耐震化事業と老朽管更新事業を進めています。その概要を今回の改訂で計画に記載します。

#### 3 中長期財政収支の見通し

収益や費用の見込みについて、平成 23 年度及び 24 年度の実績の平均値から推計したものを公営企業会計制度見直し後の平成 26 年度及び 27 年度実績の平均値に置き換えて推計します。また、将来見込みにおいて岐阜県の「県営水道長期収支計画」（改訂作業中）の状況により受水費の見直しを反映します。

これらの見直しを踏まえて、平成 26 年～35 年度の 10 年間の計画期間と平成 36 年～45 年度の 10 年間の推計期間のものに改訂します。

### 可児市水道整備基本計画

平成 28 年度において「可児市水道整備基本計画」を策定中です。

この計画は、配水池、ポンプ場、送水管及び配水管などの水道施設の将来的な構想を定め、それを実現するための計画です。

前回計画の策定から 10 年以上を経過し、この間に小名田調整配水池を岐阜県、多治見市、可児市で共同設置し、東濃地域からの県水受水地点が増加したことや配水池の耐震化を優先したことなど施設整備の状況が大きく変わっています。また、将来的な人口減少による給水量の減少も予測されます。

今回の計画は、送水管や配水管のダウンサイジング、ポンプ場を含む送水ルートの見直し、配水ブロックの統廃合による配水池の削減、及びこれらを配慮したポンプ場や送水管、配水管の耐震化などを含めた水道施設整備計画としていきます。これにより、投資計画及び収支計画を勘案し、中長期的な水道事業の健全経営を目指します。